

平成17年11月16日

日本学術振興会
プロセスシステム工学第143委員会
委員長 小野木 克明

プロセスシステム工学第143委員会
第155回委員会・平成17年度第4回研究会 開催通知
(143委員会ホームページ <http://jsps143.pse.nuce.nagoya-u.ac.jp/>)

1. 日 時：2005年12月9日（金）13:00～17:00 委員会・研究会
2. 場 所：弘済会館（東京都千代田区麹町5-1／電話：03-5276-0333）
（交通：JR中央線・地下鉄丸の内線「四ッ谷駅」下車徒歩3分）
3. 委員会：(13:00～13:10)
4. 研究会：(13:10～17:00) テーマ：「バッチ系の標準モデルは使えるか！」

（標準化動向）（司会：北島 禎二 委員）

13:10～13:40 「ISA S88, S95 最新動向と S95 Part3 概説」

東京農工大学 北島 禎二 委員

<概要>バッチ制御システムとエンタープライズ統合システムに関する国際標準規格 ISA S88, S95 の最新動向を紹介するとともに、現在 IEC 規格として審議中の S95 Part3: Activity Models of Manufacturing Operations Management にて規定されている MES のモデルについて簡単に紹介する。

13:40～15:00 「生産計画&スケジューリングの標準化におけるバッチとディスクリートの関係について」

法政大学 西岡 靖之 氏

<概要>ISA S95 や PSLX などの標準化活動により、これまで何度も議論されてきた生産現場の工程管理技術にあらためてスポットがあたっている。IT により何が変わるのか、バッチとディスクリートでどこが違うのかなどを議論する。

15:00～15:20 コーヒーブレイク

（モデリング実例）（司会：杉浦 彰俊 委員）

15:20～16:10 「業種によって異なる生産スケジューリング手法と自己構築型アプローチについて」

早稲田大学 藤村 茂 氏

<概要>業種によって異なるスケジューリング対象に対して様々なシステムの開発が行われてきた。このような開発には多大な投資が必要であり、システム開発の新たなパラダイムを創出する必要がある。日常のスケジューリング操作を通じて、システムが自ら手法を習得する自己構築型のアプローチについて紹介する。

16:10～16:25 「S88 検証のためのケーススタディモデル」

(株)山武 高山 仁 委員

<概要>JBF は S88 普及を目的として「S88 入門」を作成したが、本年度は更に進展させ、ユーザがより現実的な S88 の適用を行えるよう、実装という観点から S88 の実用性を検証する活動を行っている。この活動の中で出来上がったケーススタディ用仮想モデルを紹介するとともに、仮想モデル作成の過程で議論された S88 の課題についても一部紹介する。

16:25～16:40 「R&D からプラント操業までのモデリング」

名古屋工業大学 橋本 芳宏 委員

<概要>多品種変量生産の時代では、商品開発から市場化までのスピードが収益性に大きく寄与する。JBF WG3 では、IDEF0 でその過程をモデル化し、どの過程において、どのような情報をどのようなツールでサポートするとスピードアップに貢献できるか等の検討を可能にする基礎データの整理を行っている。当日は、作業中の IDEF0 モデルを紹介し、総合討論につなげたい。

16:40～17:00 総合討論（司会：橋本 芳宏 委員）

<追記>

準備の都合がありますので、出欠をご記入の上、12月6日（火）までにご回答下さい。